

ジャックが幸運をみつけに行くはなし

昔むかし、あるところに、ジャックという男の子がいました。

ある朝、ジャックは、幸運をさがしに出かけました。たいして行かないうちに、ねこに会いました。

「じこ行くの。ジャック」と、ねこはいました。

「幸運をさがしにいくんだ」

「いつしょに行つてもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、ジャックとねこは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

すこし行くと、犬に会いました。

「じこ行くの。ジャック」と、犬はいました。

「幸運をさがしにいくんだ」

「いつしょに行つてもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、ジャックとねこは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。

「じこ行くの。ジャック」

「幸運をさがしにいくんだ」

「いつしょに行つてもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

ジャックとねこは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。
すこし行くと、おうし牡牛に会いました。

「じこ行くの。ジャック」

「幸運をさがしにいくんだ」

「いつしょに行つてもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

ジャックとねこは、とつとつ、とつとつ歩いていきました。
すこし行くと、おんどりに会いました。

「どこ行くの。ジヤツク」

「幸運をさがしにいくんだ」

—いつしょに行つてもいい?

多いのは多いほど楽しいからね」

卷之三

卷之三

くてはなりません。するとそのとき、家が一軒見えました。ジャックは、みんなを待たせておいて、家のそばまで行き、こつそり窓まどからのぞいてみました。家の中では、どうぼうたちがお金を数えていました。ジャックはもどってきて、みんなにいいました。

んだ」
ジヤツクが、
「准備はいいか？」ときくと、みんなは、

「準備できたよ」と答えました。

ジヤックは合図しました。すると、ねこはミヤオウ、犬はウワン、ウワン、やぎはベエ～、牡牛はウンモ～、おんどりはコケコッコーと鳴きました。おそらく大きな声で鳴きました。

どうぼうたちはびっくりして逃げていきました。^にみんなは中に入つて、その家で暮らすことにしました。

けれどもジャックは、夜中になつたらどろぼうたちが戻つてくるんじやないかと思いました。そこで、寝る前に、ねこを揺り椅子に寝かせ、犬はテーブルの下に寝かせ、やぎは二階に、牡牛は地下蔵に、おんどりは屋根の上に寝かせました。それからベッドに

さて、どうぼうたちは、なんとかしてお金を取りかえそうと、あたりがまつくるになりました。
なかま

ところがしばらくすると、さぐりに行つた男があわてふためき、まっさおになつて帰つてきました。



「おれ、家に入つて、振り椅子に座ろうとしたんだ。そしたら、そこではあさんが編み針でおれをさしやがつた」

物をしててさ、針でおれをさしやがった」

「そんで、お金をさがそうとテーブルのどこに行つたら、テーブルの下に靴屋が隠れて
てキリでおれをさしやがった」

これは、もちろん、犬でした。

「それで、二階に上がつてたら、男が脱穀してて殻筆だつこくからざおでおれをなぐりたおしやがつた」
これは、もちろん、やぎでした。

「そいで、地下蔵に下りてつた。

「それで、堺工廠は下りでくたら木を切っている。男がいて斧でなんとかくりやがった」

そいつ、「こっちにやつを投げあがろー、こっちにやつを投げあがろー」ってさけびやが

るんだ

六

原語:『English Fairy Tales』JOSEPH JACOBSS

再話・村上郁